



帰国生の学校選び A to Z

●第36回●

中学・高校編入対策と高校卒業後の大学受験

日本の学校では新年度がスタートしました。これから帰国を予定している方にとっては、帰国後の学校選びが気になるところです。いつ、どこに帰国するかによって入学できる学校が定まり、卒業後の進路にも影響を与えるからです。

まず、帰国生受け入れ校は中学・高校ともに首都圏や京阪神などに集中しており、地方都市では多くありません。帰国後の住まいによっては通学圏内に受け入れ校がないこともあります。中学生ならば公立校に入学できますが、高校生では帰国後の入学先がないということにもなりかねません。

また、中学入試では中1の4月、高校入試では高1の4月ならば帰国生入試実施校もまずまずの数ありますが、それ以外の時期の編入学は定員に欠員が生じた場合のみ募集することもあり、必ず実施されるというものではありません。また、募集人員も多くはなく、時には高倍率になることもあります。中高一貫校の場合は高1の4月でも編入学です。編入学では入試日や入試科目などが公表されないこともあり、受験校の選択や受験対策がしにくいのが問題です。帰国時に編入学する場合には早めの受験校情報収集と学習対策が必要です。

編入学では帰国する時期も重要です。私立中では3年生での編入学は実施しない場合が目立ちます。また、中高一貫校でも中学3年生での編入学は実施しない学校もあります。高校では高1の4月に入学しない場合にはすべて編入学であり、学年が上がるにつれハードルも高くなり、高3からの編入学はほとんどありません。遅くとも高2の夏休み明けまでに編入学するのが望ましいでしょう。

一方、高校編入で注意したいのは、卒業後の大学受験です。ほとんどの国公立大や早稲田大、慶應義塾大の一部の学部などでは、海外の高校卒業が帰国生大学入試の出願要件です。海外の高校卒でなくとも受験できる大学でも、日本の高校在学期間を1年半以内とか2年以内などと定めています。したがって、高2の夏休み以降または高2の4月から編入することをお勧めします。



執筆者：月羽 筆人（文京学院大学女子中学校 高等学校 北米事務所 アドバイザー / 名古屋国際中学校・高等学校 アドミッション オフィサー 北米地域担当）

河合塾での指導経験を経て米国では CA・NY・NJ 州の補習校・学習塾にて指導。現在はデトロイトりんご会補習授業校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験学習「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所アドバイザー。お問い合わせ先：E-mail bunkyo@ujec.org Phone & Fax 855-926-1140 (文京学院) E-mail nihs@ujec.org Phone & Fax 855-669-9300 (名古屋国際)